

# 学 界 消 息

**1. I. G. Y (国際地球観測年) 西太平洋地区会議**  
 については前号でも報告したが、現在(2月13日)まで  
 に中国からは団長趙九章、副団長涂長望の両氏の外7  
 名、ソ連はペルーソフ(地震)サヴァレンスキー教授外  
 1人、パキスタンからはナクビ氏、アメリカ合衆国から  
 はウェックスラー氏はじめ9名が来られると報じられて  
 いる。

**2. 学術用語分科審議会気象用語専門部会委員決定**  
 さきに文部省に対して表記委員を推せんしてあったが、  
 近く正式発表されることになった。その氏名は下記の通  
 りである。( )内は推せん学会。  
 宇田道隆(海洋)、河角広(地震)、田村雄一(地球電  
 磁気)、横山泉(火山物理)、山中園利(農業気象)、  
 伊東鬮自(雪氷)、肥沼寛一、島山久尙、桜庭信一、  
 斎藤鍊一、佐貫亦男、高橋浩一郎、日下部文雄、  
 橋本梅治、吉野正敏、神山恵三、沢田竜吉、大田正次、  
 渡辺次雄、磯野謙治、半沢正男(以上気象)

**3. 75周年記念事業資金のための密附金募集に関連し**  
 て、先般来お願いして多数の御協力を頂いております  
 が、密附をされないで論文集を購入される場合には頒価  
 が割高となりますので、まだ御密附されてない方はなる  
 べく早くお申込み下さい。締切は6月末日です。

**4. 高層天気図の記入高度はメートルに**  
 高層天気図に記入する気温の単位は従来から摂氏であ  
 るが、高度は10フィート単位で記入し、200フィート毎  
 に等高線を描いていたが、本年(1957)1月1日から記  
 入高度の単位はメートルに変わった。100メートルあるい  
 は50メートル毎に等高線を描くと便利であろうが、現在

は200フィートに相当する60メートル毎に等高線を引い  
 ている。

## 5. 予報技術検討会開かる

2月12日および同月13日午前中、主としてベースの転  
 換についての予報技術検討会が開かれ、中央ならびに地  
 方諸官署の間に一般的な討論が行われた。

## 6. 新入会員

富和栄吉(関西気象協会)、松井普二(奈良測)、太田  
 巖(広島地気)、水沢正雄(熊谷測)、谷川良次(気象庁  
 通報課)、藤原忠(北海道農試)、高島翼(小名浜測)、白  
 井恒雄(小名浜測)、大原道彦(小名浜測)

## 7. 日本気象学会創立75周年記念事業資金密附者名簿

昭和32年1月13日から2月9日までに御密附を頂いた  
 方々(到着順)は次のとおりです。なお、これをもって  
 申込領収証に代えさせていただきます。もし掲載漏れの  
 方がありましたら至急御連絡下さい。

84. 高橋淳雄	11口	95. 富高四郎	6口
85. 真島善雄	6口	96. 長田英二	6口
86. 今山正春	1口	97. 竹永一雄	6口
87. 鈴木宗徳	1口	98. 田畑七郎	6口
88. 松岡保正	6口	99. 黒岩大助	11口
89. 服部徳一	6口	100. 佐野 悞	8口
90. 山田三朗	6口	101. 白井 伸	6口
91. 藤田三男	1口		
92. 森 国広	1口		
93. 土井謙二	6口	小 計	100口
94. 志賀正信	6口	総 計	1,057口

## 昭和32年度日本気象学会総会. 大会

1. 場 所 ; 名古屋市
2. 日 時 ; 昭和32年5月21日(火)、22日(水)、23日(木)
3. 総 会 ; 議題の提出ならびに研究発表応募

- 1) 締切日 ; 4月7日
- 2) 宛 先 ; 東京都杉並区馬橋 気象研究所 神山恵三
- 3) 様 式 ; 講演者名、所属、題目、所要時間(20分以内)、要旨(200字以内)の順